

40歳超コンビ 世界へ

岡崎の近藤さんと安城の大河内さん 柔道『形』大会出場

ベテランが二人で世界の頂点を目指す。東京・講道館で二十七日に開幕する第一回柔道「形」国際競技大会の「投(なげ)の形」部門に、高校教諭の近藤克幸六段(40) = 愛知県岡崎市 = と、接骨院経営の大河内哲志五段(43) = 同県安城市 = が日本代表として初出場する。投げ役と受け役の呼吸が大切で、なじみの薄い「形」競技の普及の役目も担う。二人は「中年の意地を見せたい。目指すは世界一」と力を込める。

ムードメーカーの近藤さんと沈着冷静な大河内さん。好対照の二人が織り成す無駄の動きのない技は、世界的にも一級品。

投げ役の近藤さんは鹿屋体育大を卒業後、愛知県で教員生活に。一九九四年には国体成年の部86キロ以下級で優勝し、現在は岡崎工業高で柔道部顧問として活躍。受け役の大河内さんは日本体育大卒業後、高校の非常勤講師を経て安城市で接骨院を開業。高校時代には県大会三位の成績を残した。

二人は、西三河柔道協会に所属。七月に開かれた日本代表選考会では息の合った演武で国内上位二位に入り、世界への切符を手にした。

体力は若手より劣るが、けいこ時にビデオで技の出来をチェックするなど準備に余念はない。二人は「落ち着いて自分たちの演武ができれば、結果は付いてくる」と日本一を誓った。

(メモ)

柔道の「形」競技 国内の全日本「形」競技大会は1997年から始まり、部門は「投(なげ)」「固(かため)」「極(きめ)」など7つ。「投」では、技の投げ役と受け役の2人がペアとなり、約8分間に内またや背負い投げ、肩車など規定の15の投げ技を披露。技の切れや美しさのほか、礼儀作法や服装も審査対象となり、100点満点で得点を競う。欧州、アジア、アフリカからも参加する27日からの国際競技大会は講道館、全日本柔道連盟が初めて企画した。